

年 組 名前：

学校新築、改修予定の自治体

自動水栓 74% 希望

感染防止はトイレの蛇口から。学校のトイレにある手洗い場の水栓（蛇口）について、校舎の新築や改修を予定している自治体の74%が、ハンドルを手でひねるなどしなくてもいい非接触型の「自動水栓」を導入したいと考えていることが、TOTOなどトイレ関連企業でつくる「学校のトイレ研究会」の調査で分かった。

調査は2019年11～12月に全国の1787自治体を対象に実施し、204自治体が回答。研究会は「新型コロナウイルスの感染拡大で、非接触型水栓の導入への意識はさらに高まっているのではないか。国も感染防止や予防のため、トイレなどの整備に補助金を出している。自治体は有効に活用してほしい」としている。

学校のトイレにある蛇口の現状を複数回答で尋ねると、建築または改修から5年以上の学校において、手で蛇口をひねって水を出す「ハンドル水栓」が78%を占めたほか、「レバー水栓」が23%で、自動水栓は17%にとどまった。

一方で、建築または改修から5年未満の新しい学校では、自動水栓が60%に上り、ハンドル水栓は26%、レバー水栓は25%だった。

学校のトイレでの感染防止対策として、具体的に取組んでいることも複数回答で質問。便器の洋式化が88%、手洗いの励行が60%だったのに対し、手洗いの自動水栓化は35%で施設の新築や改修に合わせて対応する姿勢が浮かんできた。

2020年9月6日付 山梨日日新聞 10面

問1

全国の学校トイレの手洗い場にある水栓(蛇口)の型を3つ書いてください。

① ② ③

問2

多くの自治体が今後導入したいと考えているのは、どの型の水栓ですか。

.....

問3

その理由は何ですか。

.....